



分事に思えた。

- ・以前から自分で調べたりしてある程度わかっていたが、当事者と率直に話せたことで距離が近くなった感じ
  - ・人によって性に対する考えも異なるし、LGBTQ+というものにあてはめてしまうことも違うのかなと思った。
  - ・自分はLGBTQ+ではないと思っており、自分の性について深く考えることはなかったが、SOGIという言葉を知って、自分らしさや100人100通りの性について考えたいと思った。
  - ・“男”と“女”のどちらかで決めようとしすぎていた。
  - ・多様性の内実の多様性に気づけてました。
  - ・100人いれば100通りの性の多様性があるように1人1人個性があって違う。
- LGBTQ+の中にもいろいろあるとわかり、変わりそうだと思った。
- ・男女という枠組みだけでなく、男女どちらでもない人もいるということ。自分が思っているよりも、性は実に多層的だと思った。
  - ・大きな変化を感じました。男らしさ、女らしさを目指すのではなく、自分らしさを追究するべきだとわかりました。
  - ・意外と多くの当事者がいて、生活していることを知った。講演前に比べより身近に感じた。
  - ・聞いていると性別という分類は、ただ単にLGBTQ+を含めて数種類だけではなく、もっとたくさんの種類があると思った。
  - ・多様な性について受け入れることが大切だと思った。
  - ・自分で情報収集してある程度わかっていたつもりだったんですが、より具体的な例と声を知ることができました。
  - ・私は男性を好きになることが少しずつ難しくなったり、気になることはあっても、もっと一緒にいたいとか一定の距離よりベタベタされることが苦手です。これはアクセシブルですか？
  - ・とても多様であることに社会の仕組みはまだ追いついていないことがリアルに分かった。

#### Q.講演会前後で「LGBTQ+当事者に対する接し方」についてあなたの考えに変化はありましたか。

- ・当事者の方が自分らしく生きているのを見て、LGBTQ+の人だからこう接するというものはないのかなと思った。普通に性別関係なく人として接することが大切であるとわかった。
- ・「受け入れる」「尊重する」ということが大事だという考え方に変化はなかった。
- ・思っていたよりもオープンに話して下さったので、性の違いにとらわれずに1人の人として関わるのが大切だと思いました。
- ・その人の要素の1つとして性を見て、1人の人間として接することが大切だと改めて思いました。
- ・何気ない一言がカミングアウトしていない当事者を傷つける原因にもなり得ること。
- ・自分に何気ない対応で人を傷つけてしまうこともあると思ったので気を付けたい。周りの環境によって当事者の方々の生きやすさが全然違うと改めてわかったので、理解を深めてLGBTQ+の方と接していきたい。
- ・今まで気を遣って接する必要があるのかなと思っていたが、自然に受け入れていくことが何よりも大切なのだと感じた。
- ・受け入れることが大切だと強く感じた。周りの人たちが受け入れること、味方であることが、LGBTQ+の人たちが過ごしやすい社会づくりのために必要だと感じた。
- ・10人に1人もいと知り、常にLGBTQ+の人がいるのかもしれないと思いながら接したい。
- ・性もその人のアイデンティティの1つとして接するべきだとわかった。
- ・当事者と話したことで特別な接し方がいらないと自信がついた。
- ・いろいろな人がいつのそと結局気にせず接した方がいいのかなと思った。
- ・周りに受け入れられたい方や、学生時代にいじめを受けていた方もおり、周りの受け止め方が大事だと思ったので、カミングアウトしやすい環境や雰囲気を作り出すことが大切だと思った。
- ・僕も当事者だと思った。(SOGI)
- ・変に気を遣い過ぎず、普通に接しようかなと思った。その人だけが特別なんじゃない、私もみんなも持っている個性だから。
- ・彼氏、彼女いるの？といった質問が困らせることもあると知り、性別にとらわれた考えは変えたほうがいいと思うようになった。
- ・男女ということで人を区別せず、その人自身を見ていきたいと思った。
- ・大きな変化を感じました。最初は少し見た目や考え方に違和感を感じていましたが、なくなりました。
- ・性について1つのアイデンティティであると感じた。
- ・LGBTQ+当事者に対しておかしいであるとか違和感のようなものは全く感じなくなった。
- ・聞いてはいけない質問などを聞いても良いのだということがわかった。
- ・自分の気持ちと相手の気持ち、両方大切にしながらお互いの「らしさ」を認め合える関係性をつくっていききたいです。
- ・仕事柄多くの人と接することがあり、中にはLGBTQ+で悩んでいる人もいます。そのような人たちにどのような言葉がけができるのかわかりません。
- ・自然に接する。男性か女性かを意識しないで個人(1人の人間として)接する。接してほしい。

Q.LGBTQ+当事者と非当事者が共に過ごしやすいキャンパスづくりのためにはどのような取り組みが必要だと思いますか。

- ・男女での区別を極力なくしていく(5)
  - ・受け入れる雰囲気を大切にする(3)
  - ・特別な人と思わずに接する(2)
  - ・非当事者、当事者という区切りをつくらない
  - ・その人の気持ちを尊重してあげる(2)
  - ・男女を感じさせないこと
  - ・多くの人へ認知度を広げること
- 
- ・多目的トイレ、だれでもトイレを充実させること(9)
  - ・LGBTQ+について授業・講演会で取り扱う(5)
  - ・交流の場を設ける(3)
  - ・制服を統一する
  - ・気楽に人に知られずに相談ができる窓口が必要

◎意見や感想等を自由に記入してください。

- ・お話が上手であつという間でした！ありがとうございました！
- ・貴重なお話がたくさん聞けて良かったです。
- ・実際にLGBTQ+の方からお話を聞いて、実体験を聞くことができたのでとても良い機会になった。どんな人も個性を大切に、表現すれば良いと感じた。自分もLGBTQ+の方はもちろんいろいろな個性のある人と繋がって関係を大切にしていきたいと思った。
- ・実際に生で当事者から意見を聞いたのは初めてだったので楽しかった。知らないだけで自分の周りにもLGBTQ+の人がいるかもしれないため、安易な発言には気をつけたほうが良いと気付いた。
- ・普段聞くことができない話を聞いて、インタビューもできてとても貴重な時間を過ごせた。
- ・遠い存在のように感じていましたが、意外と身近な存在であり、非当事者、当事者という区切りをつけず、個性の1つとして受け止めていく必要があるなと思いました。
- ・LGBTQ+の人たちの明るい様子を見て、がらっとイメージが変わった。悩みを越えて人生が楽しそうだなと感じた。
- ・質問の内容にNGのものがあったり、嫌悪なモードになることがあるのかなと思っていたけど、笑顔で受け入れ楽しく授業をしていただいてイメージががらっと変わった。
- ・お話を聞ける機会が初めてでとてもいい話をきけてよかったです。
- ・もっといろいろな人の話や体験談も聞いてみたい。
- ・LGBTQ+の方に直接話を聞くことのできる機会はなかなかないので、とても良い経験になった。
- ・LGBTQ+に対してより身近に感じることができるようになったと思う。
- ・参加できてよかったです。
- ・いろんな立場の人の話が聞けてよかったです。もっと時間がほしかったです。
- ・普段聞くことのできない当事者の話を聞けてよかったです。想像だけでは、カバーできない悩みがあると思った。
- ・自分が思っていたよりも、ずっと多くの方が自分の性に違和感を持っていることに驚いた。男女という枠組みでその人のことをとらえるのではなく、その人自身の個性として受け入れる姿勢や態度が大切だと思った。
- ・LGBTQ+への考え方だけでなく、男女区別なく他人への接し方は多様であるべきだとわかりました。
- ・自分の周りにはあまりいない人たちの話を聞くことができたので非常にいい経験になった。
- ・結婚の話などを聞いて良かった。
- ・とても面白かったです。ありがとうございました。
- ・おもしろかったです。
- ・LGBTQ+と枠をこえて人が生きていくため、幸せになるためのヒントのある内容でした。性差よりも個人差の方が大きいし大切。